

闇とは何か？闇について考えてみました。

闇とは国語辞典では

① 暗い状態。光のささない状態。また、その所。

「一に紛れる」

② 知識のないこと。道理がわからないこと。

「母の言葉の放つた光りに我身を縋（めぐ） る一を破らん/浮雲^{四迷}」

③ 心が乱れて、正しい判断ができなくなること。

「恩愛の一」

④ 人に知られないところ。

「一に葬る」

⑤ 前途に希望のないこと。見通しのきかないこと。

「一寸先は一」

⑥ 秩序の失われた状態。道義が行われないこと。

「義理が廃ればこの世は一だ」

⑦ 月の出ない夜。闇夜。

と書かれています。闇とは暗いところです。視覚的には「夜」が暗く、昼間は明るいです。闇、暗さと感情が結びつくと、怖い、辛い、苦しい等、様々なマイナス要因が浮かんできます。感情はどのように作られてくるのか考えてみましょう。

小さな子はまず名（音）を覚えます。少しずつ単語を覚え、しだいに話ができるようになります。話ができるようになると（字）を覚えます。次に（数）を数えることができるようになると、筋道たてて話をしたり、筋の通る文章を書いたりできるようになります。ただし論理的な文章の作成能力の発達には非常に個人差があります。また物事を比較検討することによって違いを見出すことができるようになります。次の段落で説明しますが、次第に自我意識というものが確立されてきます。

名づけられたものの用途や機能などの特徴を抽出することで名の意味が成立し、それぞれが概念として定着していきます。具体的には人と話をしたり、本を読んだり、テレビを見たりといろいろな経験することによって、五感覚から外界の情報をコトバとして取り入れ、蓄積していきます。蓄積された概念からそれぞれの価値観が構築されてきます。それが自我意識です。

子供はコトバを獲得すればするほど豊かな感情表現ができるようになります。つまり獲得されたコトバによって感情が作られていきます。感情は2元的に発達していきます。相対的コトバ（語）によって相対的感情を獲得していきます。たとえば

好、嫌
陰、陽
善、悪
明、暗
白、黒
楽、苦
・
・
等等

のようになります。

私達の感情は相対的、対立的に発達してきます。コトバの獲得は乳児、幼児、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学と徐々に自己客観もできるようになります。自己客観の意識が根付いてくると、他に対する批判や理解も起こりますが、自己の内面への理解も深まります。

相対的な意識の客観は、コトバの獲得並びに様々な経験によってより**普遍的意識**に目覚めていきます。自己の本質への疑問は宗教、哲学、科学という様々なアプローチにより今日に至っています。

年を取ると経験も深まり、普通にはより普遍的意識の理解が進みますが、そうでない人もいます。人の感情は様々で皆違った価値観を身につけますが、全人類の全感情に共通する事があります。それは人類の感情、思考はどの人も

「コトバ」

でできているという事です。思考はコトバで作られているのです。どのような環境で育ったかでその人の思考のあり方が影響を受けます。もちろん本来的に持って生まれた思考パターンもありますが、多くの方は持って生まれた思考の特徴に、親や環境から大きな影響を受けます。

また人と他生物の「生」のあり方と何が違うのかというと、「コトバによって考える」ことができるということです。他生物は自然の計らいのままにその「生」を生きていますが、人類は「コトバ」を与えられ考えることができるので、様々なインフラや、人にとって生活を便利にする物、道具を作ることができます。だから自然環境の中で人が住みやすいような社会を創ることができました。自然の完全循環システムの中に、人類中心の消費型社会を作りました。

思考はコトバでできています。そのコトバが相対的、対立的状態のままでは思考は当然相対的、対立的になります。

心の闇は他の生物にはありません。人類にだけ心の闇が存在します。コトバを頂いているからです。思考できるからです。

コトバでできている思考はどのようなエネルギーなのかを、エネルギーの角度から解明された方がいます。

小田野早秧

という方です。

コトバのエネルギーがどのようなエネルギーであるのか、その解明から様々な事が解けてきました。コトバを解く事は人の思考を解く事になります。このことがとんでもないところに繋がっていたのです。

心の闇を解く方法、人の本質が明らかになりました。

闇という字を見てください。

闇

門の中に「音」が入っています。どんな音なのでしょう？何故門の中に音が入ると闇になるのでしょうか？今回のテーマ「闇の進化」とは一体どのような事なのでしょう？

プロローグとしての「闇の進化エピソード1」でした。

私は八田光典と申します。小田野先生にお会いしたのが1984年（昭和59年）5月3日でした。小田野先生の徹底した無駄のない生き様、17年間学ばせていただき、以来福岡で毎月研究会（毎月第3日曜日13：00～17：00 <http://www.cloverplaza.or.jp>）を催しております。

大学で機械工学を専攻していたので、小田野先生の宇宙をエネルギーとして解析されたその手法に、びっくり仰天しました。

このことこそが人類の循環型社会への扉を開くこと確信いたしております。

今年は「申年」、申す年に菊池静流さんが1月26日にブログを開設されたとメールをいただきました。このブログは光透波を学んでいる方も、これから学ばれる方もコミュニティースペース、対話（大和）の場として広がっていくと良いなと思います。

私には87才になる父と84才になる母、妻と3人の子供、一人の孫、がおりますが皆すくすく育てていただいております。感謝！感謝！！です。

闇の進化エピソード2へ続く…